



「夏休み自由研究お助け隊 福井城の櫓を作ろう」

ハピリンでの親子を対象にしたお話と工作教室。昨年に引き続き指導は語り部のIさん。お得意のパソコンを駆使した説明のわかりやすさは絶妙でした。坤(ひつじさる)ってどういう意味? 櫓は矢を収納する倉だからそう言われるようになった。(なるほど…)

紙で作る櫓は三階建て。最初は発泡スチロールで作ろうとしたが難しく櫓を模った紙の切り抜きにしたとか。ご苦労の跡が偲ばれました。

そばで見ていたボランティアセンターの女性職員さん。「指先を使う工作っていいですね。きっと忘れないと思います」と話され本物の櫓の完成にも思いを馳せておられた。

親子で参加された皆さん。楽しそうで良かったですね。

(公財)歴史のみえるまちづくり協会 ボランティア 語り部ふくい

令和7年7月1日より名称が変更になりました。
ふくいのこれからを見据えて私たちの名称も一新!
気持ち新たに頑張りましょう!

■北庄城築城450年 取材をうけました!

語り部ふくいに、福井市の広報プロモーション課から北ノ庄城址450年につき取材依頼がありました。特集記事を組むということで日頃、ガイドを行っている語り部に話が聞きたいと白羽の矢がたったのは嬉しいことです。



北ノ庄城址資料館2階で
取材協力の様子

■令和7年度福井県ボランティアガイド連絡協議会語り部発表会・交流会

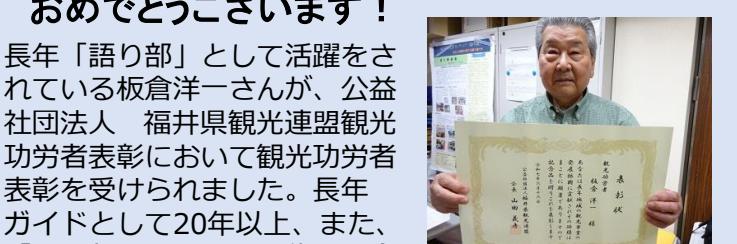
令和7年8月28日(木)福井県下のボランティアガイド約70名が、越前市の市民プラザたけふに集まり日頃の活動や団体についての発表、午後からは、まち歩きと参加団体の発表がありました。

越前町観光ガイドさんのお話では、人気バンドMrs.GREEN APPLEの新曲口ヶが行われた越前町のバス停が、ファンの聖地になり観光客がいっぱいです、まさかにぎわい!嬉しい悲鳴だそうです。

■観光功労者表彰

おめでとうございます!

長年「語り部」として活躍をされている板倉洋一さんが、公益社団法人 福井県観光連盟観光功労者表彰において観光功労者表彰を受けられました。長年ガイドとして20年以上、また、「語り部ふくい」の6代目の会長としてもご尽力されました。



板倉洋一氏

■福井城址お堀見学会 坤櫓整備事業

福井県交通まちづくり課に現地説明会をお願いしたところ、なんと「9月5日もしくは、9月8日は福井中央公園と県庁内で行われるまちなか音楽フェスのため、福井城址の堀中の工事が中止になり、水が抜かれたお堀の中に入れますよ」との提案をしていただき今回の見学会が実現しました。



お堀の中 見学の様子



■福井城址お堀で 焼夷弾発見!

9月5日(金)午前中お堀の中を見学会の時のこと。「あれ焼夷弾じゃない?」見学者の声。県職員の通報により、京都の自衛隊不発弾処理班の出動となりました。直径約8cm長さ約50cmの円筒型の焼夷弾と確認。一時道路は通行止めとなり騒然となりました。



■夏休み自由研究お助け隊!

講師のIさんが、工夫を凝らして、簡単に安全に作れる櫓キットを用意。

材料は100円ショップで売られているもので事前に堀と池の絵を糊パネルに貼って、櫓と石垣を台紙に挟み込む穴を開け、作成櫓の展開図を厚紙の台紙を人数分準備。子どもたちは糊しろの部分に糊を付け3重の櫓を組み立て屋根を架けて完成!なかなかの出来栄えでした。



ブログ うららのまち「語り部」ふくい



活動の様子や福井の歴史を発信しています。



ホームページ 歴NAVIふくい



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。



YouTube 福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などを配信しています。



よもやま話

我が故郷の英雄継体大王が育った地

高村 昭夫

男大迹王（おほとのおう）の青年期の1550年前、当時の越の国は、出雲や九州から朝鮮半島との舟運交易が盛んで、最新の文化や産業の基幹である鉄も先端の技術力を確保していた。

その事は足羽山（あすわやま）古墳や松岡古墳からも出土した国内最古で唯一の金銀製の冠や装飾品に刀剣や武器具でも伺える。真に合理的で高性能な農耕具が九頭竜川（くずりゅうがわ）、日野川や幾多の河川等の灌漑と治水事業を進めて、湿地を豊かな農地に変え農耕面積の拡大により米作りが拡大し、1500年後に主力の【コシヒカリやいちはまれ】に繋がった。

他に興隆へ導いて頂いただろう小山谷（おやまだに）の笏谷石、今立の和紙、朽飯服間（くだしふくま）の織物業、河和田（かわだ）の漆業、王子保（おうしお）の窯業等のように、地域毎の産業が興り領民の生活も豊かな越前になった。

さて、大王御自身の九人の御妃も地元である遠くの尾張、河内、大和や近江等に、友好関係を結び支援体制を得る事が出来た。

王位の継承を巡り気弱な王族よりは、当時としては広大な勢力範囲の中で活躍され、越の国で祖母の親族方に経済基盤の環境が揃っている土着の男大迹王軍団の存在に、王朝の豪族も注目せざる得なかったと言える。

大和を囲む国主としてヤマト王権から乞われて、西暦507年に第26代天皇として、河内の樟葉宮（くすはのみや）で即位され、筒城宮（つつきのみや）、弟訓宮（おとくにのみや）を経てからようやく20年もかけて、王朝の磐余玉穗宮（いわれのたまほのみや）へ遷都されてから、今の天皇家系統の祖となる等、あまたの功績を残された。葬られた今城塚（いましろづか）古墳や県内にも大王の史跡、伝説が多く有り、福井市民の憩いの場所である足羽山の賑わいの要になる大きな継体大王の石像等も、母子家庭で振舞のお祖父ちゃんやお祖母ちゃん達が残してくれた数々の古墳共々【福井の英雄「継体大王」】が高まるように語り続けて行かなければね！



足羽山の継体天皇石像

（編集後記）

今年は北庄城築城450年。来年の大河ドラマは「豊臣兄弟」。北庄城がクローズアップされる時が続きます。これをチャンスととらえてモチベーションアップ！

【発行】

（公財）歴史のみえるまちづくり協会
ボランティア 語り部ふくい